

## 第五章 日常生活の中の民俗

### 第一節 子どもの遊び

「子どもは遊びの天才である」という。子どもは遊びによって成長する。むかしの遊びは、子どもが自然の中から考え、それを伝承したものであった。

遊び道具は子ども自身の手作りであり、また、それを作ることが遊びでもあった。

むかしは、子どもも家事の手伝ひに一翼を担っていたが、それでも、その合間に遊ぶことには不自由をしなかつた。

#### 一 男子の遊び

##### 1 竹製遊具

一、竹とんぼ 二、竹笛 三、竹馬 四、はじき鉄砲 五、水鉄砲 六、紙鉄砲 七、杉鉄砲 八、弓 九、凧

一〇、せみとり 一一、ぶんぶんごま 一二、風車 一三、竹電話など以上は竹製遊具のうち、紙・杉鉄砲は篠竹にて弾丸の太さにより別けられる。

このほか、榎木の実や棕の実なども弾丸として使用された。

せみとりには長い篠竹の先を一節位、二ツ割にして一〇センチメートル位の割竹で両方を、つっぱり三角形にして、くものエンバをまきつけたり、丸竹の先端に蠅取紙のヤニを塗りつけて蟬をとったものである。

竹電話は男女、共通の遊びで、淡竹を一〇センチメートル位のもの二個を作り、それぞれ片面にパラヒン紙など薄い紙をはり、これに五メートルから八メートル位の糸を双方の紙面につけ電話遊びをした。

## 2 木製遊具

一、ゴム銃 二、わな 三、ねん棒

わなは山鳥などをとる為、弾力性のある木を利用した。

ねん棒は長さ三〇〜四〇センチメートル・径二〜三センチメートル位の木の一端を尖らせ、これを、ふりかぶりエイツと土中に打ちこみ、相手の棒を倒すと勝となる。この遊び場は、稲の刈上後の田圃か、土地の柔らかいところである。

これは杭を打込み、毎月の吉凶を占ったことに始るといわれている。

勝負に勝ったときには、ネン棒を一抱き持ち帰り床の下に入れて悦に入ったが、負けたときには山に行ってネン棒を作り、間に合はないときは稲架の脚を切つて之を作り、父親からお目玉を喰ったものである。

3 その他の遊具

一、ブチコ 二、軍人合せ 三、家族合わせ 四、獨楽 五、金輪（竹輪）  
ブチコはパツチンともいい地面や床上で、自分のブチコを扇あはぐように打ちつけ、相手のブチコを裏返しにすれば勝となる。

軍人合せは昔の軍人の絵をかいた馬糞紙の八センチメートル×四センチメートル位の矩形のもので大將は中将以下に勝ち、地雷火は工兵に負けるといったもの。

金輪は明治時代になって出たが、鉛筆位の鉄線の輪（30〜40センチメートル位）をY型U型の鉄製の押棒で押して遊んだ。この輪には径三センチメートル位の金輪二個をつけていたので押棒で押すときにはチャラチャラと音を出していた。昭和に入り自転車のリムのスポークを取除き凹面に一本の棒を入れて回して遊ぶこともあった。

竹輪たが廻しは元禄時代には既に遊ばれていたようで、桶の輪替になった古い竹輪を押して廻ったものである。

男・女子共通の遊具、ラムネ玉、おはじき、メンコ、かるた、双六、百人一首、トランプ、折紙、切紙、日光写真、万華鏡、けん玉（一七七七年頃ヨーロッパより流入）、まりつき、あやとり、ジャンケン遊び、紙相撲、鬼ごっこ、かっぱん、陣地遊び、牛か馬か、草木あそび、石けり（瓦けり）、お手玉などがあり特に、まりつきやお手玉などは女の子の遊びで唄を伴うものが多い。

第二節 予知と禁忌

一 前兆予知

鳥なき声が悪いとき

死人がある

朝茶柱がたつとき

縁起がよい

夜 ”

不幸がある

外出のとき

下駄の花緒が切れると

”

葬式にあうと

よい事がある

燕が家に巢をかけると

”

火の玉が股倉をくぐれば

死ぬ

優曇華の花がさくと

不吉なことがある

元旦に早く宮詣りをする と よいことがある

元日に女が一番にくると

縁起が悪い

耳のかゆいときには人が噂している

二 卜占

「卜占」

大雪は豊年の貢

夕立虹が出ると天気がよい

朝虹は雨、夕虹は晴

秋の夕焼鎌をとげ、夏の夕焼桶すげよ

鳥が高く巢をかけると雨が多い

蟹がなかに上ると大水が出る

履物を蹴上げ表なら晴、裏なら雨

月が笠をかぶると雨

「夢占い」

大水の夢 増水するとき 良いことあり

減水〃 悪い

雨にあう夢、ごちそうにありつく

水の流れの夢、縁談整う

金を拾った夢 金を落とす

田植の夢 悪い

魚の夢 鱗が多い魚 良い

“ 少又は無 悪い

蛇の夢 金を拾う

火事の夢 良いことあり

齒の抜けた夢 不吉のことあり

日の出の夢 よい

日の入の夢 悪い

幼児が股のぞきをする と後がすぐ出来る

胎児の位置が右腹は女、左腹は男

三 禁忌

畳の目に爪を落とすと——長患いをする。

出針を使ふと——縁起がわるい。

足袋をはいて寝ると——親の死目にあわぬ。

食後すぐねると——牛になる

夜口笛をふくと——泥棒がくる。

火遊びをすると——寝小便をする。

蛇を指でさすと——指がくさる。

丑の日に餅をつくくと——火事になる。

九の日に餅をつくくと——苦餅といひ悪い。

夜や夕方塩を買うと——不幸がある。

夜の蜘蛛は親に似ても殺せ——不幸がある。

七夕の日に稲葉で目をつくると——盲となる。

家内親類に不幸があると——四十九日迄は宮参りをしてはいけない。

未婚の娘がハンカチや指輪を人にやると——縁が遠い。

食物の三切れは——悪い（身を切る）。

三夜泊りは——悪い。三夜泊りをするときは、着物か身についたものを置いてくればよい。

元日の朝は掃除をしない——掃き出す。

三月に午蒨種を蒔くと——葬儀用に使う。

土用の四・九日に大根種を蒔くと——葬儀用に使う。

土用の内に土扱をすれば——荒神の祟りがある。

四・九の数は嫌う——死や苦につながる。

十七夜の月を拝むと——怪我したところが悪化しない。  
寅の八日に着物を裁つと——袖に涙の絶間なし。

丙午の女と結婚すると——夫は喰殺される。

友引の日に葬儀をすると——再び死人を出す。

三りんぼうに家を建てると——倒れる。

巳の日に着物を仕立てると——よくない。(身を切る)

雨降りに吃りどものまねをすると——どもりになる。

畳の角が四つ重なると——悪い(寺の畳敷)

三軒長屋の真中に住むと——病人が絶えぬ。

土間の敷居に乗ると——主人の肩にのるのと同じ。

着物は洗って干したまま着れば悪い——一度たたんでから着る。

枕をふむと——頭が悪くなる。

単の悪口をいへば——言った者の着物をかちる。

ミミズに小便をしかけると——陰部が腫れる。

白蛇は神の使——殺さない。

蛇の皮を財布に入れておくと——金持になる。

ひき蛙を殺すと——夜、大石を腹の上に上げられる。

猫を殺すと——化けて出る。

牝鶏が時を告げると——不幸がある。

鏡を割ると——縁起が悪い。



女が石臼の目を拭くと——盲目の子が生れる。  
帚をかつぐと——大きくならない。

柿の木から落ちれば——三年以内に死ぬ。

椿、無花果・ビワを屋敷内に植えると悪い。

苗代田へ餅稲を植えるものではない。

苗をくくった藁で目をつくると——目があかない。

みようがを食べると——忘れものをする。

皿や鉢で水をのむと——大口の子が出来る。

おできや創傷のあるとき餅を食べると治らない。

足をゆすると貧乏になる(貧乏ゆすり)。

焼箸で食事をするとう世をしない。

猿は庚申様の使いだから殺してはいけない。

盆の赤トンボは仏の使い殺してはいけない。

毛髪や爪を焼くと気狂になる。

うそをつけば鬼が舌を抜く。

おへそを出せば雷にとられる。

家を北向きに建てると不幸になる。

戸障子の紙で尻をふくと病気になる。

字を書いた紙で尻をふくと字が上手にならない。

油揚げを持って山へ行くと狐にばかされる。

勝負事をするると親の死に目にあわぬ。

神社や寺の古材で飯を炊くと気が狂う。

人の身体をまたぐとその人より出世しない。

妊婦の居る家がかマドの修理すると出きた子は兎唇になる。

” が砥石、鎌、天秤をまたぐと産が重い。

” が箆をまたぐとお産が重い。

” が吠の上に坐ると鼻が生れる（吠にわれを入れて坐れ）。

” が横むしろにねると唾の子が生れる。

” が兎を喰べると兎唇の子が出来る。

” が蛤を喰べるとその子は舌を出す。

” が火事をみると赤ホヤケの子が生れる。

” が葬式をみるとアザのある子が生れる。

産後は鯛はよいが鯖を喰べると悪い。

” 葱をたべると尻がよく出るので悪い。

三人で写真に写ると中の人は死ぬ。

子供が火遊びすると寝小便をする。

人の足のうらをかくと貧乏になる。

人の死に際して行なうことは縁起が悪いとされ、平素これをきらう。即ち

○北枕○一膳飯○一杯茶○一本箸○一本花○土間と座敷を同時に掃く○着物を左前に着る○縄の帯をしめる○洗濯物を丸洗いのまましばらく北向きに干す○衿のついていない着物をきる○寝るときタオルを顔にかぶる○新しい着物や履物を夕方や夜に初おろしする○一枚の着物を二人で縫う○履物をはいて土間におりる○屏風を逆さに立てる○竹と木の箸を使う○箸と箸で物をはさみあう○粟に元から火をつける○丸い握り飯

葬儀の到来（知らせ）には二人以上で行くこと。

墓場でころぶと長生きしない。

葬儀の時、後を振り返ると怪我が治らぬ。

” の帰りには他家に立寄るといけない。

” 玄関で塩をふって入れ。

#### 四 まじない

する手るとき―手首に糸をまく或いは障子の破れより手を出し異性の末子に糸で結んでもらう。また、患者は玄

関の外に立ち家の内に居る子に糸で手を結んでもらうとよい

ハジカの予防

①雨天の木で打出の小槌（約3センチメートル内外）をつくり首にさげさせる。

② 摺鉢をかぶせて上から灸をすえるとよい。

夢見の悪いとき―南天の葉を頭にさすか、または頭の上のせると苦難を逃れる

鳥居の笠石に石をのせると良縁がある。

妊婦は戌の日に腹帯をまくと産が軽い。

冬至に南瓜を喰べると中風にならない。

黒豆をたべると声がよくなる。

ナメクジをもんでたべるとゼンソクによい。

新風呂に入ると中風にならない。

夜、履物をおろすときは「スミ」をつける。

雷がなるときはチマキを焼くか、麻の蚊帳の中にいるとよい。

長居の客には箒を逆に立てる。

陰膳を据えてやるとお腹がすかない。

五月の節句には蓬と菖蒲と茅を結んで屋根にあげるとよい。

節を尻の裏にかけるとよい。

妊婦が火事を見たときは尻をたたくとよい（アザはお尻に出来て人目につかぬ）。

第三節 方言と俗語

ある病院での老人の対話

ハツ「まあ、めづらしいナイ、あんたナゴウミランヤツタガ、(永く) どうしていましたか、みらなかつたが ドゲエシヨンナツタナイ」

トメ「ドゲエチ、どうも(まった)あなた コゲエチ、アンタ、とれば もう年をトリヤ、歌目(まよ) ツマランバイ、痛い 腰がイテエーやら、悪い 足がワリイやら。ソ

イチ、あなたは、どうなにありますか アンタハドゲエアルトナイ」

ハツ「アタヤ、この二・三日咳がヨウ出ルキ風邪を引イタンヤロウ。嫁女が病院で診チもらいなさいチ言うチ自私 よく出るから 来たところ(ま) 来タトコヤナイ」

動車でツノウチキチクレチャツタキ、連れてきて 来たところ(ま) 来タトコヤナイ」

トメ「ケンド年寄リヤ今迄病院にかかつててもゼンがイランヤツタキよかつたケンド、おかね これからおカネいらなかつたから いるゴトナ

ルゲナヤキ、お互に病氣せん ゴト要心センニヤナイ」

ハツ「ソウコタナイ、ケンド年寄リヤ今までがヨスゲチヨル。いづら ナンボカ、おかね ゼンがいること なるゲナヤケンド昔か

ら見リヤ、老人年金とか、 親の家とか言ウチ年よりヤ有難う思ウチヨカンナ 罰カブル」

トメ「ソウタイナイ、ほんとに ホンナコト」

ハツ「源七ツサン、あなた、どうありますか アンタドゲエアルナイ」

源七「ワシヤ、私は ギツクリ腰で来チヨラナイ。ソヒチ丑松ワリヤ、君は ドゲエアルトカ」

丑松「俺リヤオマイ、君(俺)の(怒)きの(う) 昨日柿をチギリヨツチ落テチヨライ」



源七「イイ年よいシチ柿して(年の年が)いもなくの木に登るモンナキそんなことなるソゲナコトニナル」  
 丑松「木ハ低くキイ木ヤツタキ大シタコトハだつたからナカツタケンド内家族がのモンガ心配シチしてツノウチキチクレタキ連れてきてくれたからオマ君米米んだの意イ」

源七「気持ハ若ケエツモリデモからだ五体ノ方かたが言うことこときかんからキ無なし理センゴトよシチヨカンニヤツマランザイ」  
 丑松「オオ、俺モソゲエ思イヨル」  
 遠賀地方の方言の例である。

福岡の方言には概ね東部(豊前・東筑前)、西部(筑前大部分)

・南部(筑後・筑前南部)の三方言に分類される。

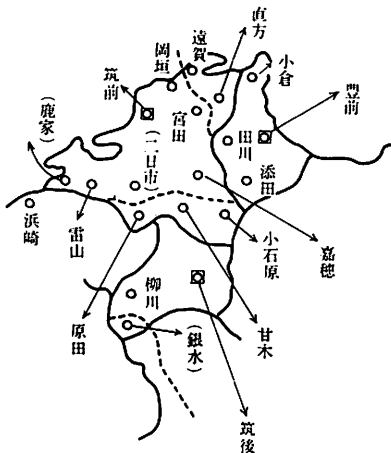
その三方言の対立を二・三、拾ってみると命令形で東部は起キイ(ヨ)、西は起キレ南は起キロ。蔬菜は東部はニュードウグサ、西部はドクダメ、南部はワクドグサ等がある。

当地方では、遠賀のチヨル言葉といわれる位、言葉のはしはしに「チヨル」が使われている。

これらは所謂、川筋言葉で、簡素明快で、飾り気が少く、住民の性質が卒直に表わられていて語勢が荒々しくなっている。

遠賀町は前述の三方言の内、東部に属するが、同じ町内でも多少の相違はある。例えば尾崎のテ言葉、別府のチ言葉といっ

(図2) 福岡県のアクセント



⑬、方言学講座(4)(東京堂)等参照

たように尾崎は岡垣寄りのやややさしい言葉が多い。これらは地理的にも隣接して昔から交流が多かったからであらう。

岡垣は九州方言アクセント分布図に於ても西部圏に分類され、遠賀地方は境界にあるため、いろいろ混乱して

いることも見られるのである。

あの部

方言

標準語

あかがり	あかぎれ
あくせうつ	ほとほと困る
あげな	このような
あごたがいい	おしゃべり
あさんま	朝の間
あすぶ	遊ぶ
あずがきれん	きまりがつかぬ
あすこ	あそこ
あすなさ	明日の朝
あせがる	いらだつ
あた	私

あただに

急に

あたまをつむ

散髪する

あたりまわる

いじる

あつかいちらす

右側

あつちありまち

ある限り

あつちあられん

とんでもないこと

あつちべた

あちらの方側

あな股ぐされ

水虫(指股間型)の一種

あばかんしこ

たくさん

あへる

あひる

あゆる

落ちる

あられねえ

荒荒しい

いの部

いいつける

○言う



いagak	○結びつける
いさぎい	ゆでる
いさぶる	気前がよい
いちみちこい	ゆさぶる。振り動かす。
いつけと	行って見てこい
いっこんたくり	すぐに
いっちくる	一しょに
いっちょけん	行く
いぬる	一度で(いっぺん)
いばしい	帰る
いみる	はげしい、荒っぽい
うの部	殖える、増加する
うえみて	植え終り
うする	紛失する
うそうそ	うろろう
うち(ん)がた	私の家
うっせえ	味が悪い。まずい

---

うてあう	相手になる
うどぐらい	うす暗い
うなあ	お前は
うの	牝牛
うらめしい	汚ない
えの部	
えすらう	あやす
えっと	漸く
えらかす	からかう
えんば	くもの糸
おの部	
おいさん	目上の男(大人)への尊称
おいたくる	追いまわす
おおげがない	長持ちしない
おとろしい	恐ろしい
おごらるる	叱られる
おーどうもん	横着者
おしよる	折る

おせ

大人

おだれる

(火) 勢が衰える

おっせこっせ

どうやら

おてる

落ちる

おとご

末子

おとんぼ

末子

おろい

粗末

かの部

かいかいとなる

すっきりする

かおも

里芋

かがる

ひっかく

かきあう

間にあう

がきされ

悪童などにつかう語

かった

借りた

かてる

加える

：がと

：程

からげる

緊張する。朝からげ||朝早く

かわんとん

河童

かんあい

寒合い、寒さの意

かんまん

かまわない。差支えない

きの部

きちい

きつい。疲れた

きなあ

いらっしやい

きびる

結ぶ

ぎょうらしい

仰々しい

くの部

ぐうたら

怠け者

くえる

崩れる

くすぼる

煙びる

ぐぜる

駄々をこねる

くそたれごし

屁っぴり腰

くだけ

碎米

ぐっちょ

競争

ぐつがへげん

はつきりしない

くちなわ

蛇

くらすみ

暗やみ、暗がり

くらかわす	なぐる	こしい	こすい。けちん坊
くれつける	投げつける	こじける	凍る
けの部		こずく	咳をする
けそけそ	落ちつきのないこと	ごすとおき	起きてすぐ
けたくそ	縁起(悪いときに用う)。運	こって	牡牛
けつくらえ	知るものかの意	こどり	下働き
げってん	肝癪もち、一くせあること。	こなす	いじめる
けつまくる	居直る	こんぼ	蓄
けつわる	仕事を自分からやめること。	さの部	
げどされ	野郎と同意。憤って言う言葉	さきとがり	出双包丁
けない	長持しない	さでくり落つる	落ちる状態をいう
けわしい	忙しい	さべる	選別する
けんたい	横柄に	しの部	
この部		しかともねえ	粗末な
こぎる	値切る	じきに	すぐに
こく	言う	ししらさびい	肌寒い
こざかしい	こうしゃくらしいとも云	したむねえ	したくない
	小癪な	しちくでえ	くだい

しちよくなき

しておくから

しびる

下痢をする状態

しまい

終り

しやっちみち

せひとも

しろしい

つらい、うっとうしい

じょうもん

娘

じょうしき

言うことをきかぬこと。

しょうじょうと

しっかりと。しんから

しょうも

しているでしよすが：

しよなむ

羨ましがること

尻こそばゆい

てれくさい

じりい

じめじめしている。

すの部

すいばり

とげ

すかたんくらわす

だますこと

ずくほ

つくし

すたくねえ

あらまし

すったり

全く

すでえ

不親切。つらくあたること

ずんど

一番、もつとも

せの部

せいがねえ

張合がない

せいまぎる

おせっかいをやく

せからしい

うるさい

せせくる

もてあそぶ

せる

混雑

せんぐり

順番

せく

①しめる——戸をせく。

せく

②痛む——腹がせく。

ぜんしょう

③急ぐ——あまりせくな。

その部

そうつく

歩き廻る

そうよう

全部

ぞうよ

経費

そぎる

削る



どうじれる	いじける、ふてくさる
どげえしよるか	どうしているか
どげえちこげえち。	まったく(どうもこうも)
とごえる	ふざける
どし	同志、友達
とせねえ	淋しい
とび	土産物
とひょうもねえ。	意外なこと
どまぐれ(もん)	故障する(放蕩者)
どやまか	たくさん
とん辻	頂上
とんぴん	ひょうきん者
なの部	
なぐれる	放蕩・あぶれる
なげべそ	泣き虫
……ない	
……なし	……ね。末尾語
なまし	生々しい

---

なわす	しまう
なるうじよる	並んでいる
何しよんならない	何をしていますか
なん、(○○さん方	人？
のなんない)(○○さんがたの方です)	
にの部	
にくじ	いたずら
にごし	米のとぎ汁
ぬの部	
ぬき	温い
ぬすくる	ぬりつける
ねの部	
ねえばない	ないですよ
ねえりばな	寝入ってすぐ
ねき	側 <small>かた</small>
のの部	
のうなる	なくなる
のふうぞう	無作法

第5章 日常生活の中の民俗

はいえ	はいえ
…ばい	…よ、末尾語
はがしい	残念
ばくりょう	牛馬商
はさかる	挟まれる
ばすぬけ	記憶そう失
はせのくる	仲間外れにする
ばばしい	まぶしい
はらかく	立腹する
はんごう	都合
ひの部	
ひいがついい	味方が多い
びいる	蛭 <small>ヒル</small> 蛙 <small>カエル</small>
びき	
びつたり	不揃き。不精者のこと
びつたれ	不精者
ひちこしい	くどい。ひちくでえとも云

---

ひゅうとり	給料取り。給与生活者
ひょうくれる	ふざける
ひよこつと	急に
ひよひよする	怖える
ひらくち	まむし
ひんがひなか	一日中
ひんずに	余分に
ふの部	
ふうたら	馬鹿者
ぶえん	生魚(不塩)
ぶすくれ	ふくれっ顔
ぶち	むち
ふつ	よもぎ
ふてえ	大きい
ふみたくる	踏倒す
ふるて	古着、古いもの
ふゆねえ	無精
ふんだんどん	ふみにじる

への部

へえともねえ

何ともない

べっかり

落胆の態

へっぱく

無駄口

べた(〇〇べた)

側

ほの部

ほいと

乞食

ほがす

穴をあける

ほからかす

捨てる

ほったらかす

置去りにする

ほおとくねえ

みにくい

ほおすくてえ

阿房者

ほくとう

棒切

ほど

身長

ほとめく

歓待する

ほとぶる

水分を含んで膨れる状態

ほろせ

発疹

まの部

まし

得

ますばり

へそくり

まてえ

にぶい、のろい

まんぐる

くり合せる

みの部

みじょう

忍耐力がよい

みたむねえ

みっともない

みて

満る。終る

むの部

むかわれ

一周忌

むげねえ

可愛想

むしくれ

虫喰い

むすで

稲を結ぶわら

もの部

もうがんど

つらら

もがる

急ぐ

もてん

我慢出来ない

やの部



第5章 日常生活の中の民俗

やい	やい
……やき	
やしらみ	
やぜねえ	
やっさで	
やいと	
よの部	
よいと	
よこい	
よがむ	
よごうだ	
よめあぎ	
よます	
わの部	
わが	
わきやあがる	
わくど	
わや	
柔い	
……だから	
青大将	
気ぜわしい	
しきりに	
灸	
酔いどれ	
休み	
曲る	
ゆがんだ	
そばかす	
予め煮る(麦など)	
(二人称)	
ふざける	
がまがえる	
駄目	
われ	
(二人称)	